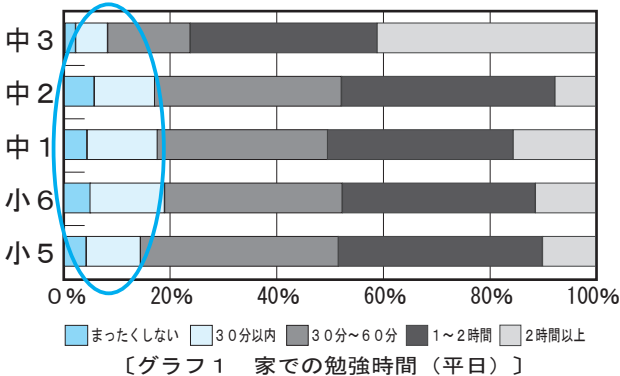


平成17年度 児童・生徒意識調査の結果について

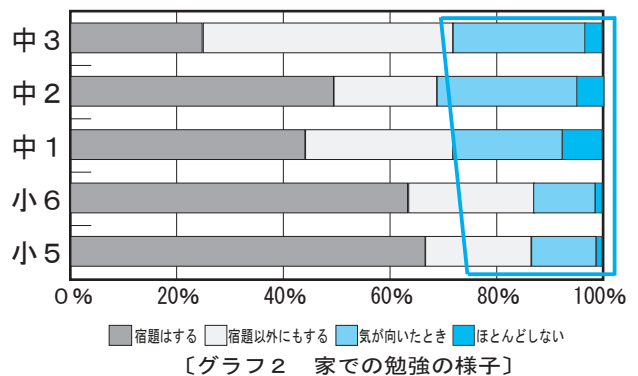
6月号では、本年1月に実施した「さつま町」の児童・生徒の「基礎・基本」定着度調査の結果と分析、そして対策などをお知らせしました。

今回は、上記調査と併行して行った「意識調査」の結果などについてお知らせします。

家での勉強時間（平日）



家での勉強の様子



【家での勉強にかかわる分析（グラフ1，2）】

○ グラフ1から、平日に「全く勉強しない」「30分以内」という子どもが、各学年10～20%いることがわかります。この意識調査は、平成16年度にも実施しており、そのデータと比較すると家での勉強時間は全体的に多くなっており、家庭や学校の働きかけの成果が出たものと判断しています。しかし「まったくしない」「30分以内」と回答した子どもは同じ傾向です。

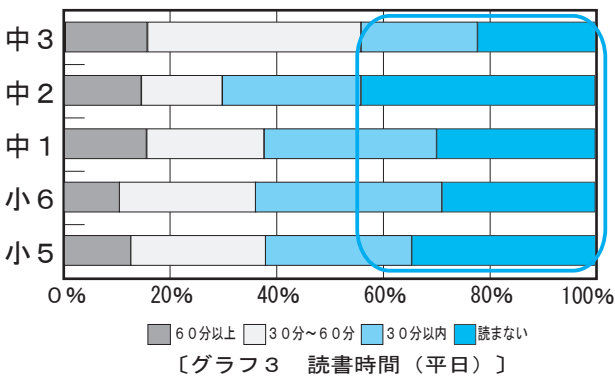
学校では、「わかる」授業に努め、学力の定着・向上に努めておりますが、人間は時間がたつにつれ「忘れる」量が多くなることが証明されています。つまり、「復習」することは、学力を定着させるためには必要不可欠です。

小学校の高学年からは、学習内容も難しくなり、復習する習慣を身に付けることはとても大切です。

○ グラフ2から、「宿題はする」「宿題以外もする」と回答した子どもは、小学校5・6年生で90%、中学校1～3年生で70%であることがわかります。「宿題は必ずする」という習慣を、小学校低学年のうちから確立する必要があります。また、「宿題をする」意味を子どもたち自身に理解させることも大切です。

◎ **学力向上には、家庭学習が大切です！**
見届け、声かけをお願いします。

読書時間（平日）



【読書時間の分析（グラフ3）】

○ 平日「全く本を読まない」と回答した子どもが20～40%います。「読まない」子どもは、1ヶ月たっても半年たっても「本を読む」可能性はかなり低いものと予想されます。

「読書する」ことによって、新しい知識を得たり、感動したりします。「読解力」の定着・向上には、読書は欠かせない要素です。

読書もやはり習慣化が大切です。好きなジャンルのものから、1日10分ずつでも継続しましょう。

町教育委員会からのお願い

- 1 学校と家庭が協力し、子どものやる気を育てましょう。
- 2 家庭で学習する習慣を身に付けさせましょう。
- 3 読書の習慣を身に付けさせましょう。

